

【第3会場：4S06教室（8）】

団体名：特定非営利活動法人シェイクハンズ

<http://shake-hands.jp/>

＜団体紹介＞

2005年に開催された愛知万博で出会った近隣市町のボランティアで、「多文化共生社会づくり」を目的に任意団体「シェイクハンズ」を設立。その後、2009年4月NPO法人格取得。

外国人散在地域とされる犬山市を中心に、地域で暮らす外国人住民と地域住民との交流を重ね、また、外国につながる子ども達の日本語・学習支援の場、親支援の日本語教室などを展開してきました。

2013年4月には、犬山市での集住地区である「楽田地区」で、外国人支援の拠点「寺子屋」を開設（犬山市より借用）し、外国人親子の居場所、子どもの学習の場、日本語教室、地域交流の場として運営しています。活動に当たっては、地元コミュニティ組織やNPOの中間組織等の協力を仰ぎながら、小中学校・保育園等との情報交換や連携をし、また最近では、一部、地元企業の協賛も得られ、周りとの連携を大切にしています。

平成25年度・26年度の文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業＜B＞では、散在地域である愛知県尾張北部地域のネットワークによる日本語教育の推進も目指しています。

また、まちづくり部門として「コミュニティレスト&フェアトレード店」も運営、外国人住民と共に、国際交流の場での協力、祭り等での出展など、外国人の地域参加・活躍の場もつくり、双方向の関係性の構築を目指しています。

課題としては、専門の日本語教師が少なく、ボランティアのより一層の研修等への参加が必要なこと、NPOのご多分に漏れず資金難。そして何よりも、子ども達の学習成果が学校システムのなかでは評価されにくい事、まだまだ、地域での理解が得にくい事です。

2014年5月現在、正会員53人、賛助会員34組。うち、日本語ボランティア登録者18人。

＜これまでの主な事業＞

愛知県 多文化共生促進日本語教室

愛知県 多文化共生地域貢献教室

おかえりなさい塾（放課後の居場所づくり）

みんなの日曜塾（親子日本語教室、母国語支援）

外国籍やひとり親家庭への学習支援（寺子屋）

多文化プレスクール（小学校入学支援）

外国につながる子の夢のエスコート（進路支援）

発達障害が疑われる子への学習支援（寺子屋）

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムB



事業実施概要

事業名称	愛知県尾張北部におけるネットワーキングによる地域日本語教育の推進 ～生活者としての外国人支援ネットワーク～			
地域の課題	4,000 人の生活動線をほぼ一にする外国人が住むが、散在地域とされ、行政や住民の認識が薄く、日本語教室も「多文化共生」にシフトしづらい傾向。広域での日本語教育体制整備を行い、地域内移動する外国人住民への日本語教育を充実させる必要がある。			
事業の目的	愛知県尾張北部の団体が日常的なネットワークを結び、指導者養成講座やカリキュラムに基づく日本語教室開催し、日本語教育の拡充を図り多文化共生の地域づくりを進める。			
事業内容	取組 1		取組 2(1)	
	名称	尾張北部日本語教育機関のネットワークづくり	名称	生活者として必要な日本語教室
	内容	日本後教育・外国人支援の約 15 団体や外国人キーパーソンが定期的に集まり、各地域・機関の取組や外国人実情など、情報の共有をする。	内容	地域に長く定住しているが、読み書きを含め日本語が苦手で、地域にとけ込めない人が多いため、「カリキュラム案」に特化した日本語を指導する。
	対象	尾張北部の日本語教育団体や外国人キーパーソン等、約 20 人。	対象	尾張北部に住む外国人住民。
	時間	1 回 2 時間 × 8 回(全 16 時間)	時間	1 回 2 時間(～4H) × 17 回(全 51 時間)
	人数	16 人	人数	24 人
	取組 2(2)		取組 3	
	名称	子育てを応援する親子日本語教室	名称	支援者養成講座 ～地域密着型の教室運営をめざして
	内容	子育て中で学習する機会のない親に、親子で学習できる場。当事者同士のネットワーク形成を促し、情報交換や悩み共有・相談などで、子育てしやすい環境づくりの一歩として。	内容	外国人住民の状況や日本語ボランティアの活動意義、活動の為の知識やスキルを養い、教室運営について考える。10 回連続講座。(初回は、公開パネルディスカッション)
	対象	犬山市及び近郊の子育て中の外国人	対象	日本語教室で活動する人、目指す人
時間	1 回 2 時間(～4H) × 7 回(全 20 時間)	時間	1 回 3 時間 × 10 回	
人数	7 組 18 人	人数	17 人	
連携体制	★犬山市・江南市国際交流協会、扶桑町多文化共生センター、大口町サラダボウル★犬山市民活動支援センター★楽田地区コミュニティ推進協議会 ★楽田小学校・保育園			
成果と課題	情報共有・連携の重要さの理解が進み、次年度以降も、ネットワーク会議の続行が決定し、内容についても行政等、人材拡張も決定した。ネットワークを生かし、養成講座にも当該地区から参加があり、カリキュラムを利用した学びの場づくりを学び、実践できた。課題としては、日本語教室参加者の連続出席が難しく、実習生の参加率が良いのに比べ、長く日本に暮らす南米系ほど、興味ある日程に参加する傾向が見られ、日本語習得の重要性が暮らしに直結する認識が薄く、その必要性を実感する体験が一層必要では。			
発表者から一言	市町を越えた散在地区でのネットワークづくりの会議を軸に、それを活用した養成講座や、日本語教室を実施し、以降にもつながる展開になっていった事を、お伝えしたい。			